

## 【事例 H29-6】 沖縄県

## ゲートキーパー養成研修（学校教職員等対象）

【概要】専修学校、大学を含む、小中高の教職員を対象に、学校現場のゲートキーパーとなることを目的に研修を実施。講師は加古川市教育委員会学校支援カウンセラーの阪中順子氏。はじめに自殺の実態やそのサインなどについて講義を行い、自殺に対する正確な知識や考え方を知ってもらった。続いて危機対応、事後対応、自殺予防教育といった内容について、映像やロールプレイ、グループワークを取り入れ、体験的に学べる実践的な研修とした。

## 【大綱の分類】

2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
4. 自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る
5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
11. 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

## 【政策パッケージの分類】

- 基本2-3) 学校教育・社会教育に関わる人への研修  
 重点1-2) 若者の抱えやすい課題に着目した学生・生徒等への支援の充実  
 重点1-6) 社会全体で若者の自殺のリスクを低減させるための取組

## 【事業実施年度】 2018 年度事例

【事業予算】 275,883 円（2018 年度）

## 【利 点】

- ▼ 教職員がゲートキーパーの知識を得、自殺予防教育について知ることで、児童・生徒への早期支援につながる。
- ▼ 予防的教育を推進するための体制づくりのきっかけとなる。

## 【実施に至るまで】

**教職員を対象にする理由**

- ① 若年者の自殺の死因順位が高い。
- ② 予防的教育、子どもへの早期支援が重要。
- ③ 教職員は、児童・生徒の変化に気づきやすく、働きかけもできる立場にある。
- ④ 研修で得た知識を、日頃の業務の中ですぐに活かしてもらいやすい。

**計画を立てる上での工夫**

- ① 教職員が参加しやすいよう、夏休み期間中に日程を設定した。
- ② テーマを「子どもをこころの危機から守るため学校現場でできること～教師向け自殺予防プログラムの実際～」とし、日常業務の延長に心の健康支援、自殺予防があることが伝わるようにした。
- ③ 専修学校の教職員も対象とした。
- ④ 研修は映像やロールプレイ、グループワークを取り入れ、日頃の業務で活かせることを目指した。

**具体的な内容**

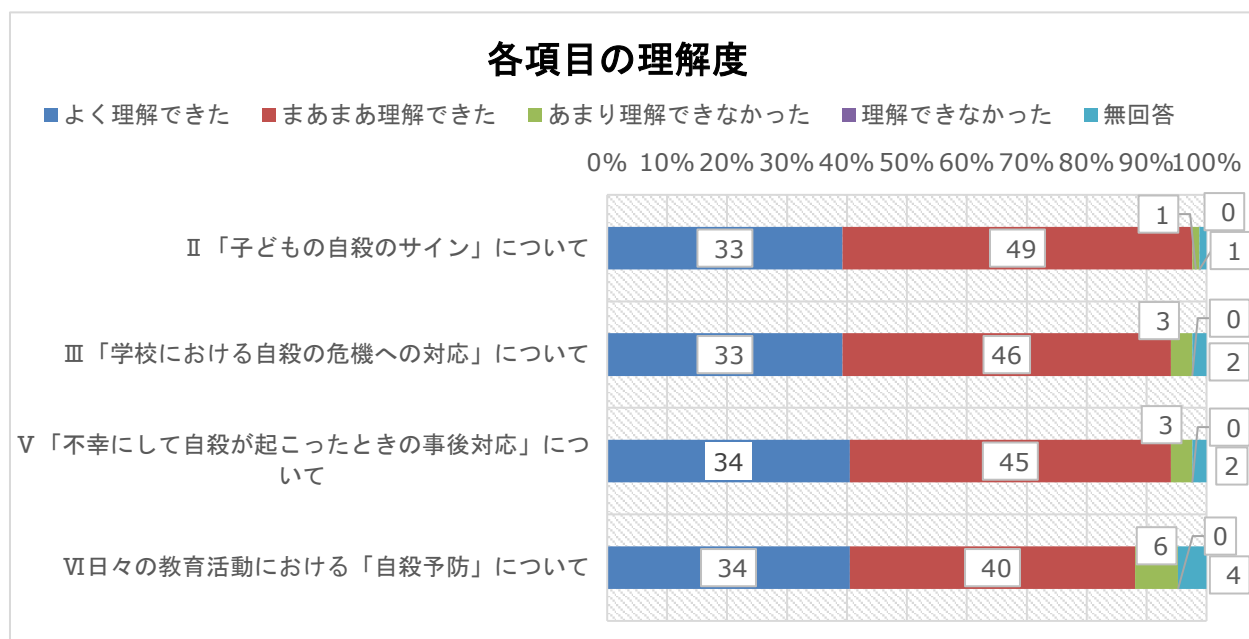
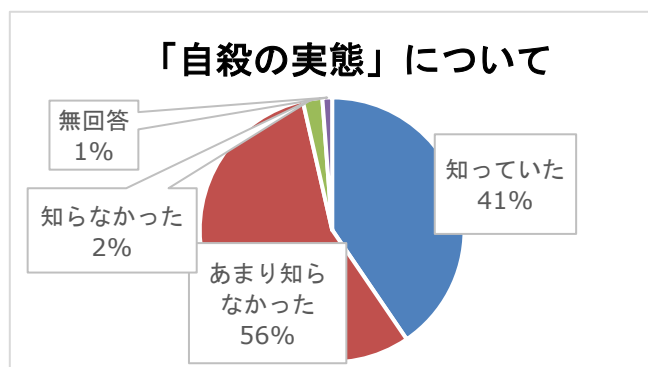
- ▼ 研修は4時間半  
 ・学校支援カウンセラーによる講義、ロールプレイ、グループワーク。

(上記、講義形態については、時間は区切らず、研修講師に一任)

- ・自殺の実態、自殺のサイン、危機対応、校内外のネットワーク、事後対応、自殺予防教育の項目について、講義やグループワークにて学習。
- ・“事後対応”は、自殺が起きてしまった場合を想定し、その一報を受け、どう校内体制を作るかをグループごとに考えた。

**【成 果】**

- ▼ 研修回数は一回。講師一人で各グループを回るため、定員は多くない方がよいと講師より話があったが申し込みが多く、参加人数は90名。
- ▼ 研修後のアンケートにて、自殺の実態について“知らなかった”“あまり知らなかった”と回答した参加者が約6割だったが、研修内容に対する理解度は8割を超えていたこと(下記グラフ参照)から、適切な対応を講じることが期待できる。



- ▼ 事後対応について、「ここまで具体的に考えられていないので不安を感じるとともに必要だと強く思った」「他の研修ではない内容でとても参考になった」と、研修内容の希少性に言及した感想もみられた。
- ▼ 翌年度は対象を思春期相談機関等としたゲートキーパー養成研修を実施したが、教職員の参加申込の多さが目立ったことから、意義ある研修として教職員間で認識されたことが分かる。

**【課 題】**

- ▼ 今回の研修は関心のある教職員が任意で参加するもので、定員の2倍以上の申し込みがあったが、自殺予防教育を(本県の自殺総合対策行動計画の指標にあるように)全校の取り組みとするためには、教育行政との連携が必要と考える。

## 【補 足】 ▼研修用チラシ

## 平成30年度ゲートキーパー養成研修

(学校教職員等対象)

テーマ

子どもをこころの危機から守るため学校現場でできること  
～教師向け自殺予防プログラムの実際～

学校現場で児童生徒から「死にたい」と言われたり、自傷行為の対応に苦慮することはありませんか？児童生徒のこころのSOSに気づき、適切な対応をとることが、子どもを現在の危機から守り、未来を生き抜く力を育むことにも繋がります。自殺予防のため、教職員等関係者にはゲートキーパーとしての役割が期待されています。今回は、全国各地で教師向け及び子ども向け自殺予防プログラムを実践しておられる阪中順子先生をお招きし、自殺についての知識を深め、自殺に傾く子どもへの対応法をグループワークで実践的に学びます。

(※ゲートキーパーとは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援につなげ、見守る人のこと)



●日時 平成30年8月1日(水曜日) 10:30～16:00  
(受付10:00～)

●場所 沖縄県総合福祉センター 4階 東棟403研修室  
(那覇市首里石嶺町4丁目373-1)

●対象 学校教職員等

●講師 加古川市教育委員会青少年育成課教育相談センター  
学校支援カウンセラー 阪中順子氏

## 【講師プロフィール】

元奈良県公立小中学校教諭(～2011年3月)  
私学小学校中学校 カウンセラー(2011年4月～2017年3月)  
加古川市教育委員会 学校支援カウンセラー(2017年4月～現在に至る)  
臨床心理士 学校心理士スーパーバイザー  
文部科学省「児童生徒の自殺予防に向けた取組に関する検討会」委員  
「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」委員 (2006年8月～現在に至る)  
日本自殺予防学会理事(2015年9月～現在に至る)

## 著書

・『学校現場から発信する子どもの自殺予防ガイドブック』(金剛出版2015)  
・『学校における自殺予防教育の実践からみえてきたもの』(『精神医学』第57巻第7号 医学書院2015)  
・『現場で役立つ生徒指導実践プログラム』(共著)(学事出版2011)  
・『新訂増補 青少年のための自殺予防マニュアル』(共著)(金剛出版2008) 他

●参加費 無料

●申込み 裏面の 参加申込FAX送信票 にご記入の上、FAXにてお申し込みください。

主催 沖縄県立総合精神保健福祉センター (問い合わせ先TEL:098-888-1443)

【事業種別】	研修実施(教職員等対象)
【準備期間】	95日
【人数】	9人
【人口規模】	1,443,802人
【財政規模】	373,832,319,000円(2017年度標準財政規模)
【自治体負担率】	33%
【事業対象】	児童、生徒、学校教職員
【支援対象】	児童、生徒
【委託有無】	無
【実施主体・問合せ先】	沖縄県立総合精神保健福祉センター

TEL:098(888)1443

Mail: xx031151@pref.okinawa.lg.jp

## 【参考資料・文献】

(ア) 『学校現場から発信する子どもの自殺予防ガイドブック』 阪中順子著 金剛出版